

西洋
茶内
止

ル 2
3273
1



門 2
號 3273
卷 1



福澤諭吉著

西洋旅案内

附録萬國商法

慶應三年

尚古堂發兌

丁卯初冬

西洋旅案内序

論語に朋遠方より来るて其理を悦ばしむるに
やと國の遠方より来るるを悦ばしむるに
何るべし唯人の來るを悦ぶるに待たざるを
ては外に折節ハ此の如くを遠方より來るるを
よの余の性愛極むるに業に其後を
得て萬延中乃年付り免乞力リホルニヤに
航海して後文久安北奉ハ歐羅巴北諸國
巡歴し今茲ハ又ワシントンニニューヨーク一行

西洋旅案内目録
 卷之上
 世界の圖
 總論
 船賃拂方の事
 爲替金の事
 通用金相場の事
 船中の模様
 經緯度の事
 世界中時候の事

夢應三年丁卯の旨

福澤諭吉 誌

西洋旅案内目録

卷之上

世界の圖

總論

船賃拂方の事

爲替金の事

通用金相場の事

船中の模様

經緯度の事

世界中時候の事

印度海飛脚船の立寄る場所

上海

香港

サイゴン

シンガポウル

ピトシ

セイロン

アデン

スエス

アレキサンデリヤ

メシナ

マルセイユ

パリ

マルタ

ジブラルタル

サウスアンブロン

ロンドン

卷之下

太平洋海飛脚船の立寄る場所

サンディエゴ

サンフランシスコ

アカボルク

パナマ

アスピニウラニル

ニウヨーク

附録

商法

コンシユル勤方の事

兩替屋の事

商賣船雇入の事

積荷請取状の事

商賣船質入の事

荷物送状の事

賣捌勘定書の事

上段のまろき繪圖二
 つの内右の方と西半
 球といひ左の方と東
 半球といふ世界のま
 ろき所と示したるも
 のなり



西洋旅案内卷の上

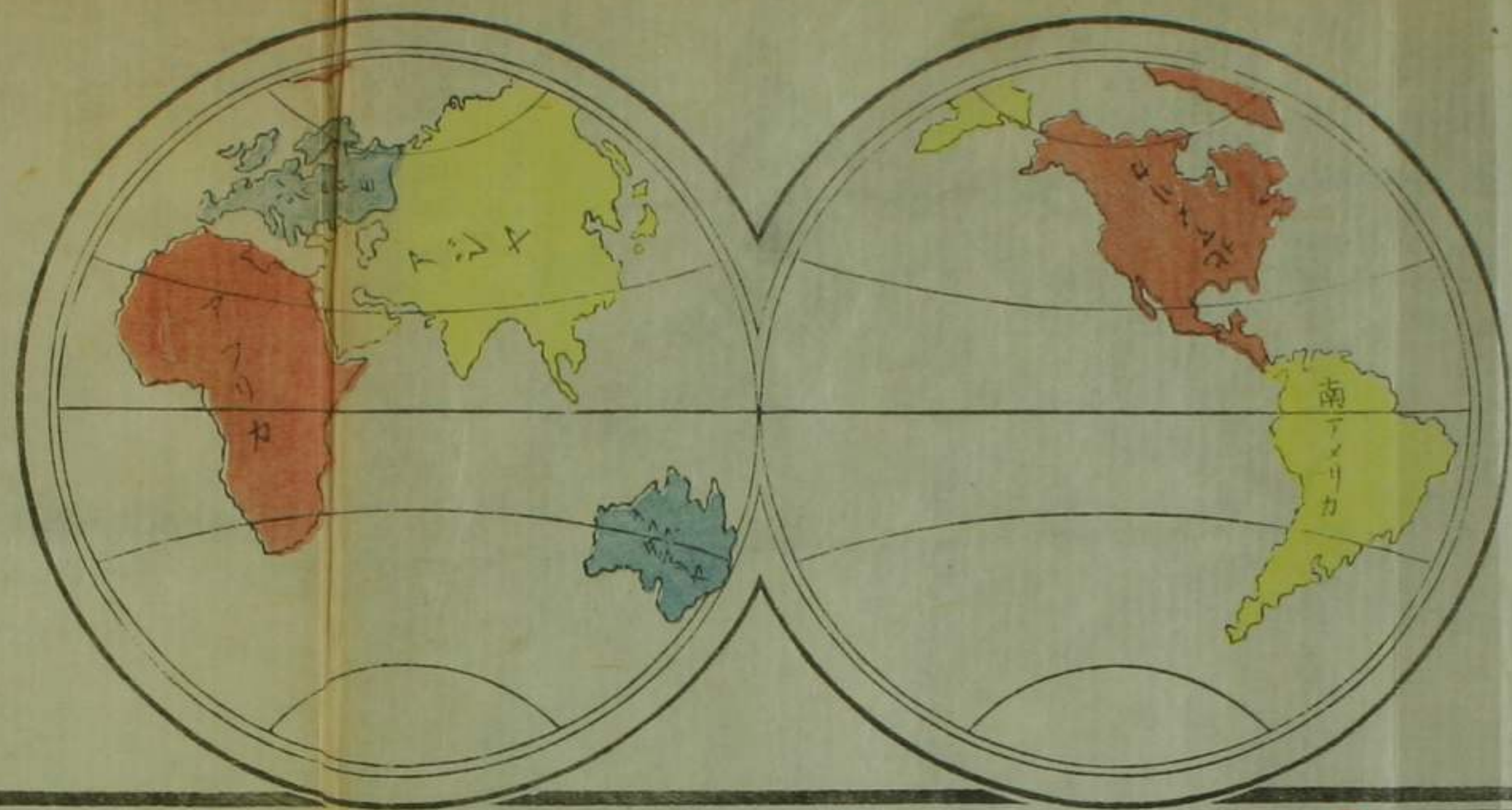


世界の形ちは圓くして球の如く故に内を地球
 といふこの地球の中は海あり陸地あり陸地を五
 小分て五大州と名く第一亞細亞州第二歐羅巴州
 第三亞米利加州第四亞非利加州第五亞太利州の
 まなり亞細亞州の中は日本支那印度等の諸國
 あてて金銀銅鉄材木絹糸綿茶砂糖其外天然の産
 物多し亞非利加州太利も其國の産物は多々まど
 も國人の生れつき愚にして學問の道開けを道具

福澤諭吉 著



上段のまろき繪圖二つの内右の方と西半球といひ左の方と東半球といふ世界のまろき所と示したるものなり



下段の繪圖はまろき地球を平らひるげて世界中小船の往來を路筋と顯しきふものなり上段の繪圖と引合せ見らる



仕掛の目論見も出来を一人口ふいはつまらぬ國柄あり世界第一學問の世話行届き人情おとなしく兵力強く禮儀正しくして國富天然の産物ハ少なきとも人の工夫して物と造り陸小蒸氣車と用ひ海小蒸氣船に乗り何事も便利と盡文武とも不盛なるを歐羅巴と亞米利加と限る殊に歐羅巴の中より英吉利佛蘭西耳曼荷蘭を始と亞米利加は合衆國の中心にていちを大國なるゆへたゞ亞米利加の中心にていち易と屬し既支那日本とも條約を取結び且又印

度邊の島々も歐羅巴諸國の領分あり數千の商船東西に往来し商賣日小繁昌をば元來亞細亞洲に産物多きゆへ少して即亞細亞洲は世界第一の交易場といふなり日本も外國人のめとを西洋人としつゝ歐羅巴亞米利加の人々商賣の荷物と持渡さる西の方より來ふゆへなほ然る所の通西洋人々東方の亞細亞洲と交易す所不荷物は大抵帆前船にて喜望峰を積廻ることを色ども急用の品物を送り又商人など速き海路代往來するに荷物船小乗てハ不都合なる不付先年よ

英吉利佛蘭西の商人仲間と結び印度海定飛脚の蒸氣船數艘を作て其便利を達し支那日本に歐羅巴へは海上風雨小相らるる凡六十日にて着く夫ら亞米利加へ十日余り渡るべし尤飛脚船ハ數艘用意して途中度々乗替るべし先日本と出帆し其乗筋并に船と乗替る場所左の如し

横濱より	上海	香港	シンガポウル	セイロン
五百五十里	四百五十里	七百五十里	七百五十里	七百五十里

アデンより アデン 千里

アデンより アデン 六百里

スエズより 上陸し百里を越えその地續く蒸氣車に乗て一日小越し地中海へ出る所の港とアレキサンデリヤとのふちより又船に乗り地中海と渡り佛蘭西のマルセイユに着る又、ジブラルタルの瀬戸を出て英吉利のサウスアンプトンへ着る又亞米利加へ行くものは英吉利のレイウルポウルといふ所より毎日出帆の飛脚船あるこ

となく十日余の船路して亜米利加のニウヨ
ルクといへる所へ着るべし尚くわしきことは
繪圖を見ふべし

世の開け月ニ進み日ニ新しめて諸國の産物次第
増し交易の道益繁昌する中ふも亜米利加の合
衆國は世ニ名高き大國にて商賣の繁昌するは英
吉利佛蘭西などの諸國より遙く勝るほどのあ
となふがこのたび其國に商人等仲間を結び太平
海の定飛脚として大なる蒸氣船數艘と打建其内一
艘ハ去年の冬既ニ成就して日本一も渡来し即余

輩のみのたび乗て亜米利加へ行きてコロラドと
云る大船なまの數五艘アゴラカにて打建たる船
名と附けたる五艘と何れも三千ト余の大
り船と一體亜米利加の太平洋の飛脚船を目論見
し趣意はこまき西洋の亞細亞州へ行て交
易する小西の方より出て印度海と渡りたれども
元來世界の形ちを圓きものをきば西より行くも
東より行くも行きて先づ同様の事ふゆへ此
度ハ東の方と廻て亞細亞の諸國へ往來するの便
利と設々たるありぬの飛脚船より西洋諸國へ往

来たる船路并ニ船と乗替る場所左の如し

香港又ハ上海より 横濱 里數ハ前ニ

横濱より 横濱 記るせり

サンフランシスコ 二千五百里

パナマ 千五百里

パナマより ニウヨルク 千里

パナマは北亞米利加と南亞米利加との界ふて

のの所へ上陸し二十里の地續と二時斗

ふて通越し亞米利加の東側なるアスピニウヲ

ルといへる所へ出て夫より又飛脚船ニ乗り亞

米利加合衆國の大都會ふるニウヨルクへ着る

ニウヨルクより歐羅巴諸國へ行くは矢張英
吉利佛蘭西より亞米利加へ渡ると同トめと
て日く出帆の飛脚船ふ乗り十日斗まで英吉利
のリーウルポラルり又ハ佛蘭西のハウルへ着
るべし

右の通りぬるに太平海の飛脚船出来たり
てハ西洋諸國より亞細亞州へ往來する船路の
日數ハ印度海の飛脚船と同トめとて且印度海
は夏冬の差別なく暑氣甚しくして船中難渋なる
ゆへ此後西洋のく荷物ハ印度海より積廻ると

旅客だけは多分太平洋海の船にて渡来すべし
 其の客は東の方より来るゆへ東洋人といふとも
 理なきふりなりを實小昔日とハことわりをたす世
 の有様なり
 日本より外國へ渡るハ印度海の飛脚船に乘る
 太平洋海の飛脚船に乘るも其手續ハ同トあり
 て心得るべき箇条左の如し
 船賃ハ先方着までの惣入用と前金ふ拂ふ取極を

横濱住居の外國人ハ飛脚船の引請ありて
 者ニ金と拂て便船の切手とチケットと請取り此切手
 本船ニ持参して船賃拂濟の證據とるなり
 賃の直段は凡左の如し
 横濱より印度海の飛脚船に乘て佛蘭西のマル
 セイルより又ハ英吉利のサウスアンプトンまで
 行くハ
 一番の客 七百二十ドル余
 二番の客 五百ドル余
 横濱より太平洋海の飛脚船に乘て亞米利加の

ウヨルクまで行く

一番の客 四百三十ドル余

二番の客 三百十ドル余

横濱より亞米利加までの船賃は英吉利佛蘭西

までの船賃よりも余程下直なまども亞米利加

の飛脚船ハ賄も粗末にて且酒の代は別の勘定

れるゆへ両方とも同割合なるべし

亞米利加と英吉利佛蘭西との間ハ船賃ハ凡左

の如し 百三十ドル余

一番の客

二番の客 七十五ドル余

一番二番の外ハスチャレジ又々デッキパッセンゼ

とて極下等ハ客あてめハ船賃ハ甚下直凡百五十

ドルラル半の入用にて歐羅巴まで行かる一ハ

ンフランシスコへの船賃は五六十ドルラル

ふまされども船中賄の粗末なすはいふまでもな

く寢床もあふうな一ハ甚難渋不り

船中持越一の荷物印度海ハ飛脚船ハ一人前目方

三十六貫目限太平洋の飛脚船ハ同三十貫目限と

定とそめの定よて目方張るときは凡一貫目小付

一ドルラル半斗の運賃と別段ニ拂ふことなり但
着替の風呂鋪包など携て船ニ乗るとも其目方
と改るものとれ若又莫太の荷物あててこきと積
荷ふして船底ニ積込先方へ達するふ其運賃右
の割合より下直なり

為替金の事

横濱長崎箱館邊ニ専ら通用をば洋銀ハメキシコ
ドルラルやて亜米利加合衆國の鄰國なるメキシ
コの通用金なり其相場を時々違ふまじとも大抵日
本にては一ドルラル小付三步位の通用なり日本

の通用金は外國ふていまだ見れぬもの少く不
通用なるゆへ彼國へ行くときはそのメキシコド
ルラルと持越ことぬまじとも大金小ふりては船
積卸の取扱も不都合なり又こきと飛脚船へ預切
りして先方着の上請取る仕法もあまじとも百ドル
小付一ドルラル餘り預賃を取らふ右の次第ニ付
外國へ金子と持越そふは其金と為替を其
法色々あまじとも此節専ら行きて大犬夫ぬる
は英吉利の為替問屋といふの手形を買ふめとな
る英吉利の都ロンドンに万代不易ともいふべき

商人組合の爲替問屋幾軒もありて世界中此諸國
 へ出張の店を設け既小横濱長崎も店を出して
 爲替商賣を爲りぬの店へ行て何程ふくも金と
 入るまが其高ニ應ト時の相場を以て英吉利の通
 用ポントといへる金の手形と渡すぬの手形と以
 てロンドンの本店へ行けを正金と引替るを勿論
 此まども本店斗へ限らぬづれの國へ持越ても
 右ロンドンの爲替問屋と取引をする兩替屋へ渡
 せば直小正金と引替又ハ素人同士の賣買ふもな
 る由一たとへば世界中通用の銀札なり其手形の

文言譬へば左の如し

竟

一幾ポント幾シリング幾ペンズ也

右者何年何月何日何處を何素より請取
 高に付此券を手形と爲し生え上幾日之活同令
 本書之高可被在渡但一券二年之之取一令子
 渡申問當る仍如件

場所附

爲替問屋仲間姓名書判

月日
ロンドンのユニオンバンク

右の文証小第一の手形と金子と引替ふして第二
 第三の手形へは金子と渡間敷云々とあるは初め
 手形を買ふとき同ト手形三枚渡して一二三の印
 とつけ即一印 = 金を渡せと二三印は渡さず二
 印小渡をば一と三印に渡さずを記しり申へ速
 方への手形と持越そと三枚の中一枚を留主
 宅へ残し置次の飛脚船小て送るよふよ一枚ハ
 自分小懐中一枚を連の者へ預け置あどのめと
 二枚を左と右途中より紙入を海小落し又は萬
 一難船れどして手形とふくせしときも留主宅へ

残し置き手形を取寄て金と請取べき越向なり
 但し金子と請取ときは當人の書判と手形の裏小
 記し且手形の數三枚揃とさすを然るべき請人と
 頼むれど彼是と渡方手重なるゆへはさすは三
 枚とも間違ふさよふ自分へ持参る方宜し
 又手形の文言 = 手形と差出せし上幾日の後金子
 可相渡とあるは前よむの通りロンドン
 の為替問屋の手形ふれを世界通用の銀札ふと何
 方よても差支なく正金 = 引替る如きどもめれハ
 相對のことふていよく本筋 = 行を正金と引替る

所ハロンドンノ為替問屋を不四へ出た手形追く
 人の手を経て遂ニ右問屋小至り金と請取るとき
 手形を出して正金と請取るまでの間或は三日或
 ハ十日二月三月半年までも夫々の日限あり也一
 小初め手形を買ふときは三日限の手形を
 又は其相場よりく三月限の手形を相場やと
 一ロンドンノ本店にて直ニ金を出さずとせらる
 即手形の文言ふ何日の後とは日限といふを
 まさまとも買ふときは或は手形は相對ニ賣ると
 するやその申一日限の長短にて損徳はれよもの

右の外為替の仕法ハ種々ありまども其説話長々ま
 ばらの小冊子に記し難し

通用金相場の事

一 英吉利の通用ポントとゆへる金銭を二十二分
 する銀銭とシルリングとゆへる銀銭を二十一分
 十二ふ合たる銅銭とペンストとゆへる銅銭を
 とする彼國の言葉 即一ポントは二百四十ペン
 してベニとゆへる 即一ポントは二百四十ペン
 スなり
 一 メキシコドルラルと以てポントの手形を買ふ

一 此と固より時の相場次第はきざしが大抵一ドル
 ラルも付五十二三ペンス即ち一ポントハ九四
 ドルラル半小當るドルラルの相場と三步とを
 送バ一ポントは日本の通用金三兩壹歩二朱斗
 一 西米利加のドルラルはメキシコドルラルより
 も少一輕一 大抵百ドルラル付六七ドルラル
 の差あり
 一 佛蘭西の通用金はフランクといふ銀錢にて大
 抵五フランク半と一ドルラルと鈞合ふ相場あり

一 以前の新吹ふて金錢の表は今の佛蘭西帝ナポ
 レオンの面の像ありゆへに歐羅巴にそはぬぬの
 金錢は異名と附てナポレオンといひ一り即ち一
 ナポレオンハ日本の二兩三步斗に當る
 西洋諸國にてはありてメキシコドルラルと通用
 さざき送せぬも印度海の港并に上海香港邊を専らぬ
 のドルラルの取扱ふゆへ日本より外國へ渡る
 とら船中の小遣錢ハメキシコドルラルと正金ふ
 けて持参をべし

船中の模様

西洋の船の大小といふはトンの数を以て計
ふ日本にて船の大きき積高の石數よて勘定す所
と同様なりトンとを掛目の名よき一トンは米六
石餘の重さ小當る由一トンの船といへる六
千石餘積む船なり飛脚船を大抵二千トントンより四
五千トntonまでの大船にて荷物も澤山積む旅客も
多人數乗る船中の模様ハ太平洋海の飛脚船も
印度海の飛脚船も大抵同一のやをきを此度余輩
の乗りし太平洋海に飛脚船コロラドの模様とあら

まゝ左記をべし船の大きき三千七百トnton長さ六
十間中八間蒸氣の力も甚強と逆風あて一昼夜ニ
百二三十里も走る船の兩側ニライフボウトとて
むつていらし十艘程ありこのむつていらし底ニ
仕掛ありきたる水船ふなふとも沈むるや
よふよしたるものなるゆへ一本船の難船をふ
あともあるときはこのライフボウト小く小く
工夫なり其きりライフボウトの内より平生より
飲水パン并ふ天文と測る道具を備置し何時あて
も不意の節をぬき小乗移し饑渴の心配もぬく道

具ふて天文と測さる何れも自由に行ふに
よふふしたるものなり又船中人数銘の寢床
に浮袋の用意あり亦非常のたれ不備一も
のなき○乗組の人数船將以下役水夫頭小使
に至りて百人餘ふて船中一切のめと取扱ひ
旅客千人斗も乗せと席と上中下三段に分け上
の客船の艙小屋あり一部屋の廣さ凡四疊半
其片側一巾二尺長さ六尺斗の寢床の棚と三段
片に三人相部屋なり但し船中造作の模様自由
て二人寢の部屋もあり六人寢の部屋もあり又客

の多きやきや三人寢の部屋一別小寢床と附て五
人寢とそふれともあり○部屋の寢床一夜具の
用意ハ勿論朝夕のつうひ水手水鉢うがい茶椀さ
ぼん手拭水こぼしおびん船小酔ひとき吐く器
ほぐも備り部屋并々其外は掃除小使の引請
て船中塵ひとつおれよふにゆく行届たり毎朝
掃除終はば四半時おれり船の役人并々醫師の立
合ふて船中の見廻あり○食事を朝食夕三度朝の
食事とブレッキアスといひ昼とロンチンといひ
夕にヂン子ルやいふ朝ハ茶との食事の品も十

色斗登も同一く一寸葡萄酒れやのこ格別の馳走
 ふー夕の食事三度の内一番の馳走して色々の
 品三四十種も取揃へ酒も澤山用ひゆるまど飲食
 を馳走の品ハ三度とも肉類魚類飯パン食後ふそ
 蒸菓子水菓子總て料理ハ日本よりも餘程丁寧な
 る但日本よて平生肉食小馴さざる人々船に乗
 るとき漬物醬油其外の食物少半用意をべー外
 國風の食物のこあてはをじめ二三十日の間困る
 そのなり○食事の間は中三尺斗の長臺幾個
 もありて其上に馳走の品物并に銘々の皿茶碗と

ならべのの臺とテーブルといふ食事とを好者ハ
 十人も二十人も椅子ふ腰と掛けてひとつテーブル
 の周圍に寄集り寄合膳よて食事する姿ふ○上
 の客病氣の節自分の部屋へ食物を取寄は勿論
 又も自由茶を飲ひ付るとも勝手次第好ま
 部屋の内は煙草ハ禁制なり都て船中ハ火の元
 嚴重よて火消の道具も十分用意し時々不意に
 鐘と鳴して火事の訓練をなすことあり○中の客
 ハ艦の下段は部屋あり部屋向も塵末食事も上
 の客と一處ふするぬらぬら其外の取扱上の客

とる差別ありきとも格別見苦しきめともなり○下
 の客ハ船の舳の方にて水夫如ど、打交り寢床も
 ありふらな一食物の粗末ふらは勿論はらひ水とく
 も自由ふらぬ位にて極下輩の者ならでを其難
 洪し堪はる庵○船ハもとより乗合のめとなま
 世界諸國の旅客打交り親子連もあり夫婦連
 もあり老人も有り子供もあり或ハ酒を飲で話と
 歌ひ或ハ茶と飲て理屈とひ或ハ書と讀と或ハ
 牌子とと里或ハ田舎者不在處の自謾と一或ハ下
 手將碁ふまけて腹と立笑ふ者あり泣くも此何王

愚弄さる、者あり嫌とる、者有り其有様ハ日本
 の乗合船ニ少しも替るめとなり但し西洋にてハ
 婦人と丁寧取扱ひ都て行儀正しき風俗れるゆ
 へ初て船に乗る人などよく其めと心得婦人
 へ向て失禮とせはるる勿論男子同士にてもあま
 り慢ぶまじき話を交へらるる人の見ら處にては
 一とたとぬき赤足と出婦人の前にて烟草をの
 むれどハ甚だ失禮めめとせり謹むべしこのめ
 とる船中斗ニ限らぬ彼國一休風俗なすゆへ上
 陸の後も忘るべらるる○船中の便所ハ左右ニ十

所づゝもありて上りの客と中の客とは區別あり又
 船の方へも下の客并水夫ども此便所數ヶ所あり
 り都て便所を船中役人の立合めて毎朝掃除し誠
 小奇麗なり彼國の大便所を家の内ふあるものを
 船中ふあるものも其模様少くも替らる一段高き
 所ふ圓き穴ありて此穴ふ腰と据る趣工なり然
 る小初て外國へ行くと其めと心得を以て
 日本流に是ると便所と汚しうならず外國人の笑
 ときて面目次第もふさ出とありよくつと一む
 庵

經緯度の事

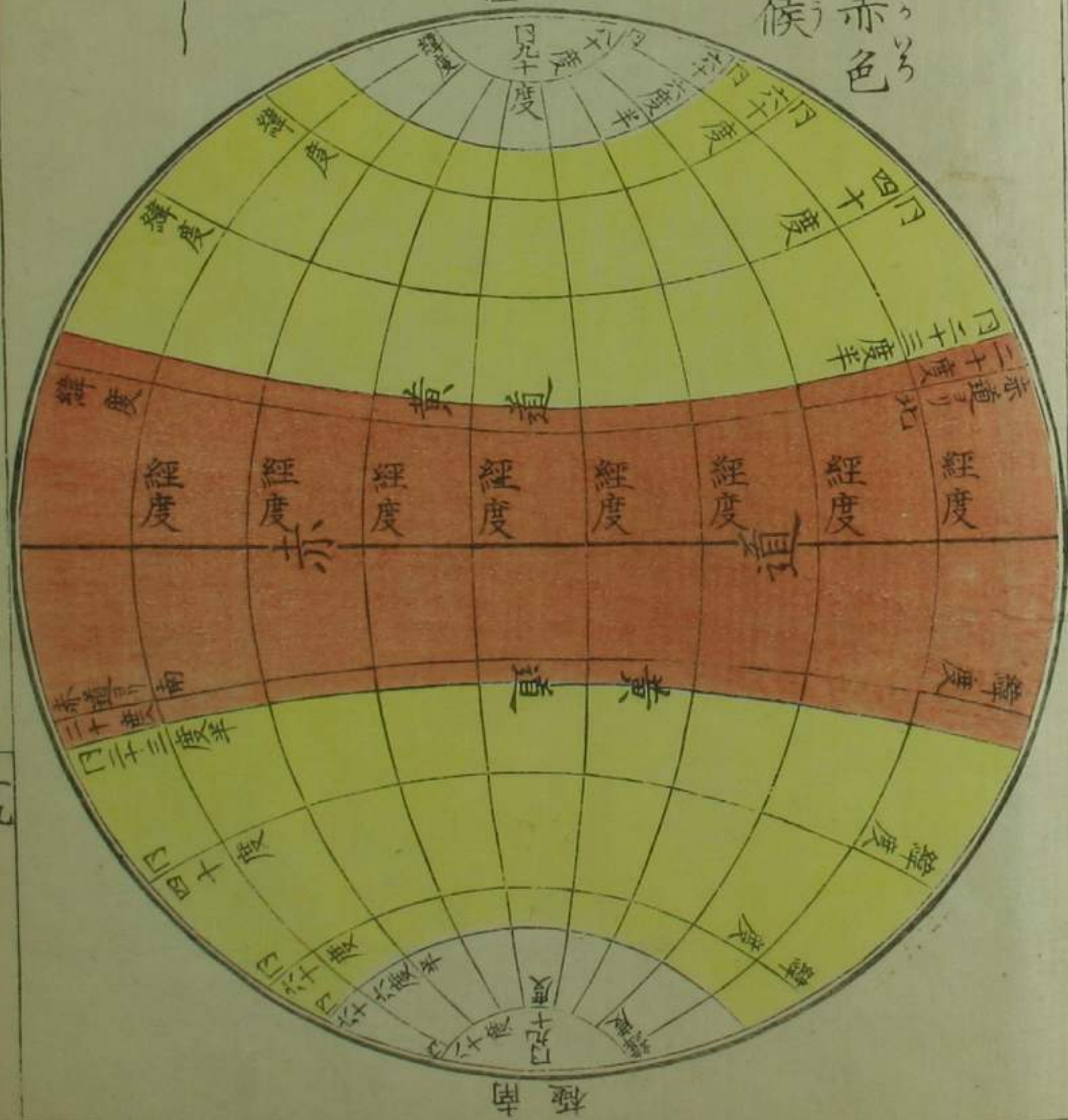
陸地小人の住居する處を此處より彼處まで
 幾町此山より彼山まで幾里と定りたるものとあま
 ども廣き大洋までハ渡海中十日も二十日も山も
 見ぬ陸も見ぬ目當と云ふべきもの如ふや西洋の
 航海者天文を測て方角を定めいふふ大洋の
 ても少くも間違なく其方角を定る仕方地球の
 北の端と北極といふ南の端を南極といふ北極と
 南極との間海を此所西より東へ一筋を引
 てこれを赤道といふ赤道と云ふ赤道と云ふ赤道と
 西

北極小至るまぐと南極に至るまでと兩方とも
九十づゝ分て赤道の通り西東筋と引き兩方
合て百八十とぬるめまを南北の緯度といふ初前
小いひー通り世界の形ちを圓きものゆー右の
如く西より東へ真直筋と引けば其筋ハ圓き地
球を取廻るとたる輪の形ちをなして地球の表側
小て北極より南極まで百八十度あるを裏側にも
同トく百八十度あり兩面合て三百六十度なり
度を英吉利の六十里あるゆー世界の周圍ハ六十
里と三百六十合せざる數小て二万六千六百里なり

又英吉利のグリインウ井ツチといふ所の天文
臺と本と北極より南極まで真直筋と引きあ
の筋より西と東一段々小六十里づゝ隔て、同
よふ小北極より南極一筋と引き地球の周圍と三
百六十と分けぬまを東西の經度といふ右の如く
世界の周圍と東西南北十文字に分け一度を六十
里と定め渡海するとき天文と見て方角と測る地
方の見へぬ大洋ふても船の居處ハ寸分も違ふ
やなこれ航海者の測量といふたとへは大洋
小て船の居處北緯三十四度東經百三十七度とい

へバ赤道より北の方三十四度即ち二千四十里英吉利の天文臺より東の方百三十七度即ち八千二百二十里の處ニ船の居るといふめとて日本此遠州洋小當り但一英吉利の一里を日本の十六町五十七間小當り其百里ハ日本の四十七里余り飛脚船も渡海中ハ毎日測量して經度緯度の數と一晝夜走るとる里數を紙に記して船中ニ張出さし一其度數を見と世界の圖ニ引合をさる素人小ても船の乗筋を考へ左の繪圖ハ經緯度の大小略と記をその如り

繪圖の中赤色の所ハ時候あつし黄色の所ハ時候はどし南北兩端の白き所ハ時候寒し



世界中時候の事

都て時候ハ土地の模様ニ由て色々ふ差あれども
 一躰ニ世界中の時候のふとといへる其大略左の
 如く赤道と真中と此より北の方へ二十三度半
 南の方へ二十三度半合て四十七度の間と熱氣の
 方角といひ時候甚だ熱く此邊の地方ハ草木よ
 く生長し大木銘木珍しく禽獸多し紫檀黒檀如
 いへる材木并ニ獅子虎象の類も盡くこの暖地
 出来るものあり其外菓實も椰子芭蕉の實麥米
 もよく登るゆへ先年より外國の人象虎など

持来て見世物小たりふともあはれども西洋の本
 國より持来てふるをあらはに印度又ハ中亞米利加
 邊の暖地にて買ひまのな祭且又近来ハ南京米と
 て多く米と持渡さども此亦らふら南京の米を
 かりてあらず暹羅安南其外の熱國より出来ると
 外國人の買取て日本へ輸入するもの多し初石の
 如く赤道より南北二十三度半づゝ此所の界を立
 て其界と黄道といふ又此黄道より南と北の方へ
 兩方とも四十三度づゝの間と平和の方角をいふ
 此邊を春夏秋冬の差別ありて禽獸草木五穀菓實

西洋諸國

も擧ぐりて出来人の住居する所より日本支那
西洋諸國ハ皆此方角ありふゆ一時候ハ大抵同
しめやなま但魯西亞此の冬分寒氣強きは此
平和の方角の内よりある國れまども余程北の方小
よきて其都ペイトルスボルフなども赤道より北
の方六十度の所ニ當る位の場所柄四一なり其外
歐羅巴の諸國も日本小較まを少一北の方小あり
ゆへ矢張り日本も少一寒一平和の方角と外ま
てぬまより北極と南極と小至るまで二十三度半
づとの所と寒氣の方角といひ草木禽獸少く人も

住つたぬ程寒き地を右の如く赤道より南北二
十三度半ぐの間ハ時候熱く夫より又南北四十
三度づとの間を時候程克夫より又南北二十三度
半づ、北極と南極とニ至るまでの間ハ時候寒し
外國へ旅行するや衣類を用意をふるもあらず
し時候の様子と心得がまは甚た不都合なり又世
間の人々動をまが外國へ行さし人ニ彼國の時候
ハ如何哉をどく尋る者多々まはま右ニ述たる理
合と知らば言葉を費さざして自分ニ分るべし尚
又前の繪圖ニ引合せ見るべし

印度海飛脚船の立寄場所

日本より印度海を渡りて西洋諸國へ行く小佛蘭西のマルセイユよりで道程九四十七百里余英吉利のサウスマンプトンまで同トく五千四百里余途中船を乗替又ハ石炭を積込た立寄場所の模様左の如し先横濱より上海まで五百里五日路なり上海ハ支那の南京と距るのと七十里餘揚子江の大河の口よりある港ふて人の數二十萬人西洋諸國の商賣船并ニ支那の小船も出入り繁華なる場所ふり其土地の産物を絹布象牙の細工物等又

市中の外ニ茶園ありて夥しく茶を製して外國へ賣出さる○市中ニ城構あり建安城といふ支那人専ら此の構の内小住居外國人の家ハ構外小あり此城ハ古代三國のとき呉の孫權が繩張せし城とて名高き古跡也近來支那の政事不行届ふて英吉利佛蘭西へ警衛を頼み城中ハ外國の旗印と建り○氣候を大抵日本と同トふとすまども濕地にて水ありと飲水に困るコレを傳染病の流行するところ死人多き由なり上海と出帆して香港まで四百里船路四日ふて着

香港ハ支那の南東の方小島を長五里巾三里岩山のこよて草木少く平地なり支那の領地なり天保十三年英吉利との合戦支那の人敗背して和睦のとき島の英吉利へ與へてより永代英吉利の領分となす其後追々英吉利人の家と建交易場と開き近來尚又寺と建立し學問所を設け人の數も次第増して繁昌の港となす此合戦の發端ハ英吉利の商人兼て阿片烟草と支那小賣込支那の人も頗小この烟草と好こ

追々其賣買大造となり一弊阿片烟草ハ人の毒ニも好り此と用さる無益小金と費して國此不爲になるゆ一支那の役人の賣買と差留んとをまじも英吉利の商人も此を聞入さ内て品物と持渡支那の人もこの毒烟草をのむと癖ふふりて矢張これを買ひ内證ふて互ニ商賣し居たりと役人の内ニ林則徐などの一人ありて大ニ此を立腹し英吉利人の持渡を阿片烟草と理不盡ニ取押して此を燒棄し阿片烟草の府も立腹し事の理非を談判もきかして我國

人の荷物と焼棄とは相濟さるゝとなすやて本
國より軍勢と支那へ差向散く小撃をく絶て遂に
支那より和睦と願ふといふことふれり廣東厦門
福州寧波上海の港五ヶ所を開き償金ハ左の通
約束せり

一六百萬ドルラル

是ハ支那の役人の燒棄たる阿片烟草代金の高

一三百萬ドルラル

是ハ廣東の商人より兼て英吉利人へ商賣

の事ニ付引負となり一を在支那の政府より償ふ高

一千二百萬ドルラル

是ハ此のたび英吉利より軍勢と差向をるニ付其入用として支那の政府より拂と

右合て二千一百萬ドルラルの高と三ヶ年賦ふ

定めも一其拂方延引をるとすは一ヶ年五分の

利息と取るべし約定せり
斯く五ヶ所の港を開き二千一百萬ドルラルの償

金と拂ひし外ニ香港の地を永代英吉利の領分小
 とすとの掛合よて和睦の談判始て調ひたり頃
 ハ西洋の千八百四十二年支那道光二十二年日
 本の天保十三年小當り今より二十六年前のこと
 なり其後萬延元年天津といふ所よて英吉利の
 軍艦と間違のこゝ出来遂に又合戦となり支那の
 人敗北し八百萬金の償金と英吉利の方一拂ひ廣
 東の地方小ある九龍といふ地面と英吉利の領
 分となししなり○香港の時候ハあつし寒中よても
 日本の三四月頃の如しの是より次第小南の方一

向ひ印度海小出紅海は入るまでハ始終熱氣の方
 角と渡海するゆ一衣類其外夏の支度と冬履一但
 一印度海の暑さよて日本の暑中よりも嚴しいと
 ハふ々進ども夜昼ともに同一暑さよて日本ニ居
 るときの如く朝夕夜中の冷氣は休息をふことの
 出来ざるゆ一は格別難澁なり
 香港よりマシシガポウルまで七百里七日路なり但
 一佛蘭西の飛脚船を走らせ此間小文趾のサイゴン
 といふ港小寄り石炭など積込むこの地ハ元安南
 の領分なりしは六七年前佛蘭西よ攻取らし當時

佛蘭西のそのとより軍艦商船も出入し追々繁
 昌し赴々其地の産物より米多し
 シンガポウルを英吉利領の島なり赤道より北の
 方二度の所ありて時候甚だあり四季の差別
 地より胡瓜茄子西瓜の類澤山あり又此邊の嶋
 には丁子胡椒生姜椰子芭蕉パイナップルなどい
 る菓實ありパイナップル草の實あり形は松子に
 似て大なり味甚だよし芭蕉も日本より其實を見
 ざるども此の邊に芭蕉は夥しく實を結て水菓

子小用ゆ味殊に甘く日本の甜瓜に似たり此の外
 蜜柑橙實等何品もより交澤山よりて價もや
 ○此嶋は虎多く折く人と害をとなり其外禽獸
 には野猪山猫大蛇鸚鵡猿の種類多し飛脚船入津
 をきき土地の人猿鸚鵡など賣物を持ち來り可受
 らしと見ても日本一持歸きば時候寒して生育
 難し○シンガポウルの人此數九六萬人此内半分
 ハ支那の人より本國より渡世し出ても其なる此
 外印度海并ニ太平洋の島くサンフランシスコあ
 どにも支那の人の住居を居者多し然る所其者共

外國人へ交る小支那の言葉ハ不通用なるゆへ英
吉利の言葉を用ゆ世間の様子を知ざる人が支那
の文字ハ廣く通用するよふ小思ふ者もあはれども
心得違ひ凡世界中ニ交易の行とる港は英吉
利の言葉の通用せざる所なり又西洋の内地小入
てを佛蘭西の言葉と貴びる國なり四へふ當時外
國人は交る外國の模様と知らんよハ是非とも英
佛の言葉と學ぶべからず
シンガポウルと出帆してマラッカの瀬戸小入右
マレヤの地方を見左小スマタラの島を詠て次第

北西に向ひ印度海小出セイロンとてのへる島の
内よりありボイントデゴウルなる港小着をシレガ
ポウルよりセイロンとす海上七百五十里八日路
なり但し英吉利の飛脚船以て途中よりピナ
ンといふ小島に寄て石炭と積む
ピナンはマラッカの瀬戸の中より右手にあり此島
も英吉利の領分なり土地産物の模様を略しレガ
ポウルも同ト
セイロンは往古葡萄牙の領分なり一たび荷蘭
小取らば其後又英吉利の領分と成り其島の周圍

三百里斗港數ヶ所あり飛脚船の入津する港とボ
 イエトデゴウルヤの時候ハ略シンガボウルと
 同様ニ暑一産物も同ク椰子密柑胡椒の類多
 一殊ニ掛技は島の嶋第一番の名産ニて諸國へ積
 出をゆへ一名掛技島ともいふ山にハ象牙一或
 ハこれを馴して牛馬の如くつうふ者あり就この
 象牙も澤山なま色くハ細工したる賣物あり○セ
 イロニハ暖地より一年ニ二度の米作あり即ち七
 月より十月までの間ニ殖作あり米を翌年の正月
 より三月までの間ニ取收り三月より五月までハ

間ハ種と下したるものと八月より十月までハ間
 登るさ道ども其米を外國へ積出ハ程澤山とそ
 出来を却て他國の米を用ふとあり○セイロン
 嶋は釋迦如来誕生の地と島の人皆佛法ニ歸依
 セリ寫の中ハアダムが峰とて高き山あり高き千
 二百間余島人の物語ニ釋迦如来の山ハ籠て法
 を説き遂ニ其頂より天上より登り今に至る海で其
 足跡ありといふ
 セイロンよりアナンまで九千里船路九日にて達
 す

アデンも英吉利の領分なり紅海の入口あり時
候はシコガボウルセイロニ此よりもあるア
地柄より一から草木少く人の數一萬餘商賣
繁昌せど唯飛脚船あどへ石炭を積込む用意を
そのこささどもこの邊と渡海す船をセイロニ
を出帆してより外に立寄るべき港なき由へ向ま
きぬく碇泊をばるそのなり
アデンと出帆して紅海へ入右の方にはアラビヤ
の地方あり左の方より寄進を亞非利加州を見
ち亞細亞洲と亞非利加州との界を一望す此の海

ハシシガボウルセイロニなどより北の方あり
る割合めてやく冷しきとづれまども亞非利加州
并にアラビヤの地方小幾百里となく廣く砂原あ
りて炎天小照され其燒砂より熱き風を吹送る由
へ昼夜とも暑氣小堪難し日本より歐羅巴一行
途中一番苦しい場所なり
アデンよりスエスマで六百里余海上六日より着
スエスもエジプトの南岸の港なり此邊の地方ハ
もと土耳其の領分なり一たびどもエジプトの城下

西遊紀行

カイロといふ所はバシヤとて城代の如き者ありて自由よこの邊と支配し今よりハ土耳其と別の國のよふお好まり○スエスの港を遠淺にて本船ハ沖ニ錨と卸し小艇にて上陸を○スエスよりアレキサンデリヤまで地續百二十里斗蒸氣車より一日も通越しカイロといふ城下ハ其途中ニあり古き土地にて名所旧跡多しマホムト宗の寺あり洪大なる構あり又カイロより三里斗の處にピラミドとて目と驚をほど大なる石塔二あり高さ四十一文中六十丈石垣のよふ築立をふものなり

西洋の事
カイロといふ所ハバシヤとて城代の如き者ありて自由よこの邊と支配し今よりハ土耳其と別の國のよふお好まり○スエスの港を遠淺にて本船ハ沖ニ錨と卸し小艇にて上陸を○スエスよりアレキサンデリヤまで地續百二十里斗蒸氣車より一日も通越しカイロといふ城下ハ其途中ニあり古き土地にて名所旧跡多しマホムト宗の寺あり洪大なる構あり又カイロより三里斗の處にピラミドとて目と驚をほど大なる石塔二あり高さ四十一文中六十丈石垣のよふ築立をふものなり
の石塔ハ九四千年前セオプスといへる國王の墓印といふ世界中ニ名高き旧跡にて秦の始皇が築し萬里の長城も劣らぬほどの大仕事なり○の邊ハ四季ともに雨降る所ハやなき熱國なるとも夜露多く且ナイルといへる大河ありて其潤ふと草木よく生長を土地の産物ハ綿コヒの類なり○人氣ハ甚だよろらるる旅人通行のとき用心すべし
アレキサンデリヤはエジプトの北岸にある港にて地中海を臨み此海ハ亞細亞州と歐羅巴州と

西洋の事

亞非利加州と三國の間あるゆへ地中海と名け
 たるなり○アレキサンデリヤも實ハ土耳其格の領
 分ふれども今ハエジプトの支配ふりてカイロ
 の別城下なりその港より佛蘭西の飛脚船小乗
 バイタリイとシ、リとの間此狭き瀬戸を通り其
 瀬戸口もあるメシナといへる港小立寄て一時斗
 船掛し直出帆して佛蘭西のマルセイルへ赴く
 アレキサンデリヤよりマルセイルまで海上七百
 里七日路なり
 マルセイルを佛蘭西領の南手あり地中海諸港

の内一番大なる場所にて諸國の商賣船日々出入
 大船千二百艘も船掛をべきほど廣き港あり諸
 方へ飛脚船も往来し交易の繁昌をみよと一ふた
 たら産物を石鹼香具其外製藥類煙草甘き酒履
 帽子等○土地の人數三十萬人余時候ハ大抵日本
 小同ト○飛脚船の旅客上陸をせ先宿屋へ一宿
 ぞこれより佛蘭西の都パリスマで路程凡二百里
 余蒸氣車まで一昼夜ニ達を履し途中ありオレと
 いふ繁華なる所あり土地の人専ら絹布羅紗の類
 と織る世界ニ名高き織物の場所あり日本より佛

蘭西へ積出す絹糸も多分ふりオニへ行く様子あり
 又アレキサンデリヤより英吉利の飛脚船二乗
 去バ佛蘭西の飛脚船とハ乗筋違ひ先同處と出帆
 マルタ嶋小立寄ジブラルタルの瀬戸と出て英
 吉利のサウスアンプトンへ着るものと好り道程
 ハアレキサンデリヤとジブラルタルまで八百
 五十里同處らマサウスアンプトンまで五百五十
 里合て千四百里十二三日の渡海なり
 マルタ嶋ハ地中海の中程ニある小嶋あり元佛蘭

西の支配なり一六七十年前より英吉利の領分
 となり土地柄ハよろしうち尖岩山斗形並ども地
 中海要害の場所なるゆへ英吉利より大造ニ臺場
 を築き用心堅固當時マルタの臺場とて世界中
 小名高き程なり○此の邊の産物ハ珊瑚珠海綿
 の類多しニシテ并々マルタ嶋へ着るれを珊瑚の
 玉と珠數のよふにたき又ハ花形れども刻を以
 て賣物ニ持来り價ハやそ々並ども品物を下品を
 り但し上品ハ英吉利佛蘭西の商人等兼て敷金を
 して其本國へ引上るゆへこの邊に賣買ふは好ま

様子なり

ゴブラタルも英吉利の領分なり地中海の入口
 不て臺場の堅固なるを世界中第一番ともいふべ
 き構れり海岸の岩山を切て砲門と開き大砲千挺
 余も据付あり英吉利人の地中海あて威光と耀
 そ認め此臺場とマルタ島の臺場ともて要害の地
 と占きふふ由てのめと不て諸國の人々の心を恐
 ぶるものなり ○ジブラタルの瀬戸の南岸ハ亞
 非利加の地方にて北岸と即ち右の臺場あり兩方
 の間狭き所あり六七里斗なり此瀬戸は不思議な

るものと潮の流なり地中海ハ此瀬戸の一方口
 まで袋の如くなると瀬戸の外より始終潮の流込
 て内より外へ流出を多しことなりされども古來地
 中海ハ水の溢しことも聞き西洋人の説ハ斯く毎
 日毎夜流込水を地中海の暖氣にて湯氣の如くな
 るて空中ニ消失且地の底ハ道ありて人の目ニ見
 ぶる所より外へ流出するをいへりと右の次第は付
 地中海も何處の海岸までも満潮も干潮も大抵
 同水の高さをて土地の人潮時といふめとと知
 らぬ

西澤抄
サウスアンプトンを英吉利の都ロンドンの西南
の方三十里斗の所あり名高き港なり諸國の船
出入りて交易商賣れ盛れるハ勿論殊ハ此港ハ世
界中小往來する飛脚船と仕出し又外國より飛脚
船の入津するも此港なるゆへ貴賤貧富の放人一
年の間出入すること幾萬人なると知らぬ土地
の繁昌いふ斗なり○此港ハ船の修覆場數所
あり洪水なる構あり見物をべし其外學門所も盛
なり世ニ名高き蒸氣機關と工夫したるトとい
へる大先生も當地にて生まきふ人なり○サウス

アンプトンよりロンドンへハ蒸氣車より一時の
間ハ通行すべし
右の手續して佛蘭西の飛脚船に乗り佛蘭西の
都パリスへ着し英吉利の飛脚船に乗り英吉利
の都ロンドンへ着し既ハパリスロンドンへ
着しれど兩都の間百二三十里蒸氣車と蒸氣船に
乗りて僅ニ一日路を先ハパリスよりロンドンへ行
くハ佛蘭西領の北なるカレーといふ所へ出夫
より十里余の瀬戸と渡り英吉利領のドラウルと
いふ港へ着し直ニロンドンへ達すべし其外歐羅巴

の諸國より蒸氣車此路縦横小五り旅行するとして杖笠草鞋の用意小も及ぶ其儘車に乗て百里や二百里の道を一夜の間にも行けるべきめくも遠くが歐羅巴州の内にて遠國へ旅行すゆめといふも實ハ江戸より近在まで歩行するほどの苦勞もな

○歐羅巴へ着の上宿屋の模様ハ上中下色々小

の旅籠なきは一日ふ一步斗ふなきあり又火勢小

て長逗留とそるよハ貸坐敷を借と手賄ふするも

先宿屋は着きせが店の帳場ふ行て名前と記

部屋の鍵と請取其部屋へ案内させて荷物如ど

も部屋へ入き一先落附其後出入の節ハうなら

ぶ部屋の戸小錠とおろそ一ハ大勢人の出入すゆ

宿屋ふ多盗賊も多一油断大べうらに宿屋の部屋

よ一く番附あり大を宿屋の部屋の數れ五

六百もあり部屋よ居て宿の者へ用事あるときは

部屋より勝手一通を針金の糸引き鈴を鳴ら

して人と呼ぶ宿へ食事部屋よ取寄てもう一又

食事の間ニ出て大勢と一處こしてまう一但

食事を部屋ふ引けば旅籠の代少一増をべ一〇外

ふ出るよへ馬車といふものあり英吉利の言葉より
 カリエイジといふ二人乗四人乗の車を馬に引
 せ日本ふきを駕籠の代ふれどもおれども駕籠
 よも乗りよくしてそや矢張江戸の駕籠屋と
 同トことふて車屋へいひ付て雇ふこともあり
 駕籠の様途中にて乗らぬともり馬車の賃錢
 道の速近よて取極又一一時何程と取極らぬと
 もあり大抵一日借切よて乗を一人前の車賃三
 四兩なるべし又オミ子ブスとく乗合の馬車あり
 ぬの車はたとへば筋違見附より日本橋までとく

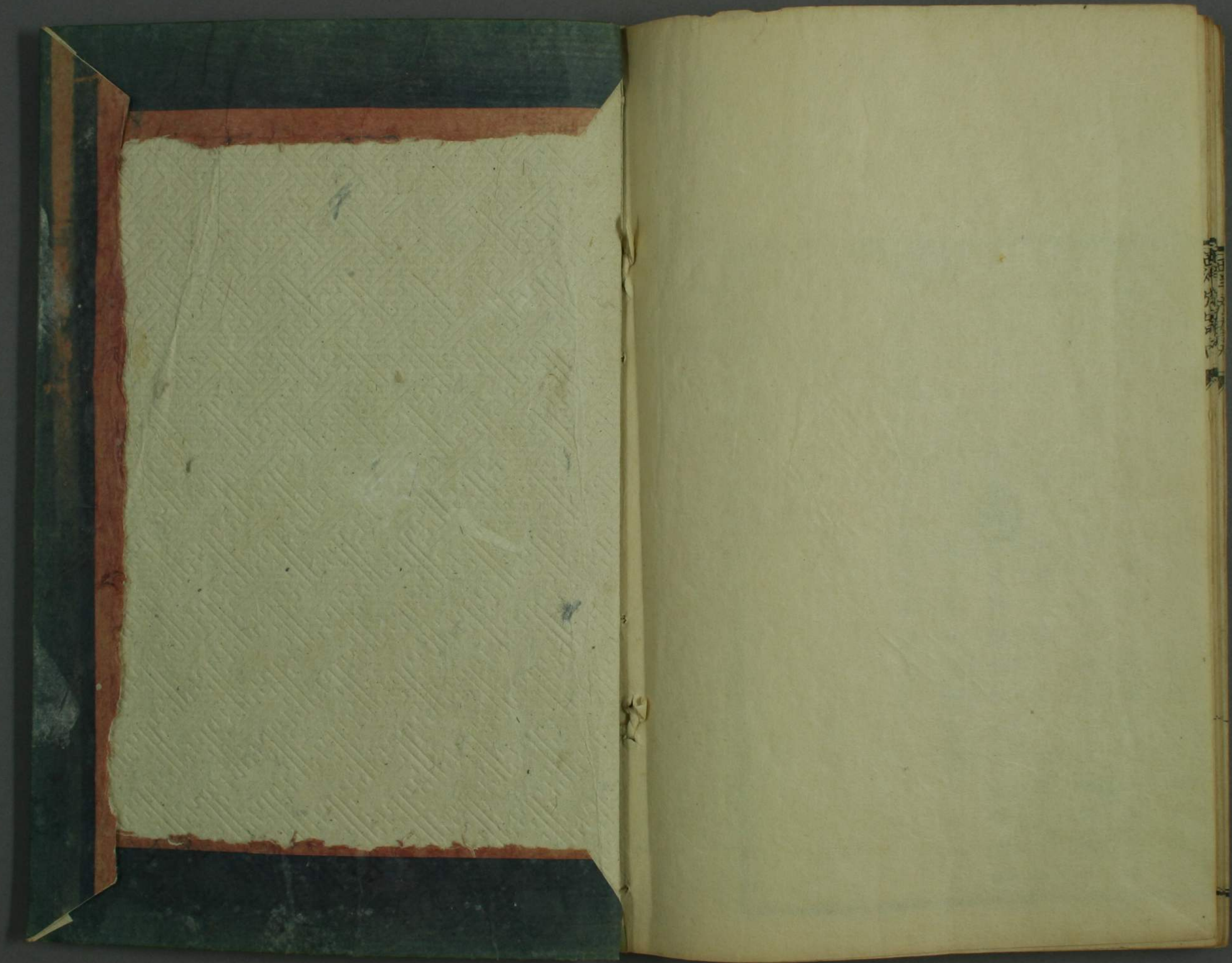
日本橋より京橋までとく道筋を極て一日ふ幾度
 も同ト道と往來するもおれぬ人敷二三十人も乗
 らぬ大車なり乗合の人を日本橋より乗て京橋
 まで行く者もあり又ハ銘々行く先の方角よ由て
 途中より乗り途中よて下る者もあり但し賃錢を
 其道筋を半分乗らば皆乗らば同一ぬとせぬや
 一軒ふ此車の賃錢ハ甚だやそし市中人通の多き
 通筋にハぬの車幾挺も往來する四一市中の道筋
 をよく心得て此通より彼通へと順くふ飛乗とそ
 走が僅斗の賃錢よて終日車に乗るべし

右の外西洋諸國の風俗模様を事明細小説んよへ
其事柄多くしておの小冊子に盡すを庵子ふあらさ
まばこれと略して下の巻も又太平海の飛脚船
て西洋へ行く途中の模様とあらす一記をべ一但
西洋諸國の政事向年貢取立方其外文學兵制
等のおとを去年余が著したる西洋事情といへる
書小其大略と記せり就て見ゆべ

西洋旅案内卷の上終



Handwritten signature or mark in the left margin.



Small vertical text on the right edge of the right page, possibly a page number or title fragment.

